

事務事業評価表 平成22年度

政策 安全で快適な都市生活の充実
 施策 交通環境の充実
 基本事業 移動交通手段の充実

事業名 **バス輸送システム検討懇談会**

[0282]

部名	企画政策部	事業開始年度	平成8年度	実施計画事業認定	非対象
課名	企画課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) バス利用者、バス事業者
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 懇談会の場を設定し、バス事業者等と情報交換をすることで、バス利用者にとって、利便性のある路線を確保する。
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) バス事業者、バス利用者 と行政との情報交換を行う

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	バス利用者数	千人	5,122	4,898	4,532	5,122
対象指標2						
活動指標1	懇談会等開催回数	回	2	2	1	2
活動指標2						
成果指標1	バス路線数 (系統数)	系統	38	35	35	35
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	3	3	2	5
正職員人件費 (B)		千円	837	836	830	1,249
総事業費 (A) + (B)		千円	840	839	832	1,254

費用内訳	
21年度	需用費 2千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	<p>平成16年度に実施したバス路線調査について、懇談会に報告した。</p> <p>バス路線調査の結果、指摘のあった上江別地域に17年2月よりRバスが新たなバス路線を運行した。</p> <p>バス懇のメンバーに利用者代表として地区連の役員6名を加えた。</p> <p>平成20年4月より北海道中央バスが市内バス路線の統廃合による再編を行った。</p>
--------	--	-------------	---

21年度の実績による事業課の評価(7月時点)

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?市の役割や守備範囲にあった目的ですか?

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は?

公共交通機関である路線バスの在り方について、市が中心となって市内を走るバス事業者や利用者と一緒に協議することは妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか?

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は?

市民ニーズやバス事業者の現況を把握するとともに、よりよいバス路線の在り方を協議することは、意義がある。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか?計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか?

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は?

バス利用者の減少傾向は長年に亘る問題であるが、バスを取り巻く環境を広報や市のホームページを通じて周知を図り、広く市民やバス利用者に理解を求めていくことは、公共交通の重要性の認識の向上につながる。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか?その理由は何ですか?

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は?

バスは地域の住民が利用することから、バス停のアダプ体制を導入することなどを通して、バス利用者のサービスの向上を地域との協同により実施する。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか?(受益者負担含む)

- ある
- ない

理由・
根拠は?

会議開催の最低限の経費のみ。